

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 5	学生の受け入れ
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	<p>アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）</p> <p>文学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成と実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、5 学科において学んだ専門を生かし、社会に広く貢献できる人材を育成するために、下記のような人物を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の 5 学科において、それぞれの専門を学ぶことのできる基礎学力を有する人 2. 人文諸科学への関心を幅広く持ち、あらゆる課題や疑問に取り組んでいこうとする人 3. 歴史上、人間が築いてきた良き伝統や優れた芸術を尊び、後世に伝えていこうとする人 4. グローバルかつ多様な現代にあって、人間や世界は本来どうあるべきかについて考えていこうとする人 5. 自らの教養を深め、他者と協力して良き社会を作るために努力していこうとする人 <p>[日本文学科]</p> <p>日本文学科のカリキュラムは、古代から近・現代に及ぶ各時代の文学を中核として、言語学、比較文学・文化の領域をもカバーし、開講科目は多岐にわたります。それぞれに専門の教員を配しており、さまざまな学生の要求に応えられるといつてよいでしょう。こうした教育システムは全国の大学の中でも、極めて充実したものであると言えます。</p> <p>日本文学科は、このような体制のもとで、向学心に富んだ意欲的な学生の入学を望んでいます。日本文学や文化はもとより、あらゆることを知的に究めていこうという志を持ち、自分と周囲の人たちの言葉に耳を傾け、共に学ぶ仲間として暖かな眼差しを向けながら、さまざまな課題に積極的に立ち向かっていく学生を求めています。具体的には、下記のような人物を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文学・日本語学を学ぶ上で、十分な基礎学力と意欲を有する人 2. 中学・高等学校の国語科教員をはじめ、日本文学科で学んだ知識や技能を活かせる職業に就こうと考えている人 3. 日本の文学・文化に興味や関心を抱き、それらに関する知識や教養を獲得し、人間として成長したいと望む人 <p>[中国学科]</p> <p>日本は明治時代、西洋文明を積極的に吸収し近代化を成し遂げました。これを可能にしたのは、中国古典学の大きな影響を受けて形成された日本の伝統文化です。一方、近代化の過程で日本が歴史的につちかってきた優れた文化を軽視する風潮が生じ、その反省に立って日本の伝統文化見直しの機運が起きました。その時、日本の伝統文化形成に深く関わってきた中国古典学を専門に研究・教育する学校を設立することになりました。それが、本学の前身、大東文化学院です。中国学科は大東文化学院以来の伝統を受け継ぎ、中国の伝統文化を凝縮した中国学の研究・教育を行っています。</p> <p>中国学科で学ぶことにより、中国文化という異文化への理解を深め、西洋文明の強い影響下にある現代の日本において東西両文化のバランスの取れた国際感覚を養います。また、中国学を学ぶことにより日本文化の成り立ちを理解し、日本人としてのアイデンティティを再確認することを旨とします。</p> <p>中国学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、中国学の知識と専門性を活かし、社会で活躍できる人を育てるため、下記のような人物を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国学を学ぶ上で、十分な基礎学力と意欲を有する人 2. 漢文や漢字に興味を持っている人
-----	--

	<p>3. 中国の伝統文化や芸術に興味を持っている人 4. 中国と日本文化との関係に興味を持っている人 5. 中国や中国に関連する物事に興味を持っている人</p> <p>[英米文学科] 英米文学科は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、英米文学の知識と専門性を活かし、社会で活躍できる人を育てるため、下記のような人物を求めます。</p> <p>1. 英米文学、英語学などを学ぶ上で、十分な基礎学力と意欲を有する人 2. 中学・高等学校の英語科教諭をはじめ、英米文学科で学んだ英語力や知識を国内外で活用できる職業に就こうと考えている人 3. 英語圏の文学、文化に強い興味や関心を持ち、それらに関する知識や教養を獲得し、人間的に成長したいと望む人</p> <p>[教育学科] 教育学科は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、教育に携わる人を育てるために、下記のような人物を求めます。</p> <p>1. 教育学を学ぶのに十分な基礎学力を有する人 2. 幼稚園、小学校の教師や保育士を目指す、意欲とバイタリティにあふれる人、教員・保育士志望ではなくても教育学や心理学や芸術分野を学び、教育について研究したい人、そしてなにより教育について問題意識を持った人 3. 教育学科は、幼稚園、小学校教師、保育士として確かな力を持って、活躍できる実践的な能力を持った人材、教育にかかわり広く深く問題を捉える視野と能力を持った人材を育てたいと考えています。そのため、学ぶことに積極的である人、人と協力しあって活動することに積極的である人</p> <p>[書道学科] 書道学科は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、書に関する学問や表現の基礎力をしっかりと身につけた上で、芸術文化を知り書の素晴らしさや感動を人に伝えることのできる人、また、見識・人格・指導力を持った教育者を育てるために、下記のような人物を求めます。</p> <p>1. 書学と書作とを専門的に学ぶのに十分な基礎学力と書く力とを有する人 2. 書が大好きで、強い意志と高い目標を持って努力する人 3. 向学心の旺盛な人、芸術文化に対する愛好心の強い人</p> <p>学生支援センター作成の障がい学生受入のガイドラインに沿っていくものとする。</p>
5-2	適切に行っている。
5-3	学生定員については、今後、5学科それぞれにおいて、現在よりも削減すべきであるとの議論でまとまっているとの報告がなされている。これは、18歳人口の受験者数減少に伴う、定員の確保の問題である。2014年度入学試験では中国学科で定員割れを起こした。
5-4	公正、かつ適切に受け入れている。 入学試験委員会での説明を受け、学科で組織されている委員会で意見交換し検証する。学年始め、推薦時期、一般入試時期、そして年度末である。

【効果が上がっている事項】

5-1	受け入れ方針が明確化され、公表されているために、高校等に向けての学科方針の説明がしやすい。
5-2	志願者数、倍率等、透明性を保持し公表している点は、社会的に評価される。
5-3	
5-4	組織構成員が、常に検証を行う姿勢を共有している。

【改善すべき事項】

5-1	
5-2	
5-3	適切な学生定員について、今後、速やかに大学当局と協議する必要がある。
5-4	

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大東文化大学ホームページ、大学案内（CROSSING）、入学試験要項、入学手続要項

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018

学部

<p>中期目標 (2014～ 2018)</p>	<p>適切な学生定員について、今後、速やかに大学当局と協議する必要がある。ただし、学部学科再編問題とも絡むことであるため、一学部のみで判断で実施可能なことではない。</p>	<p>2014年3月末には提示されるはずの「大学改革推進会議」の答申案。</p>	→				
<p>14年度 目標</p>	<p>適正定員について、更なる検証を行う。</p>	<p>文学部（学科）にある将来構想委員会ならびに教務委員会、主任会議</p>	→				